HCTC, Now!

日本造血細胞移植学会
造血細胞移植コーディネーター委員会

2019

平成30年度認定講習Ⅰ受講のみなさま

目次

平成30年度 認定講習 紹介 …… 2

認定講習Ⅰ受講者インタビュー …… 3

認定HCTC在籍施設紹介❶…… 4
国立がん研究センター中央病院

認定HCTC在籍施設紹介❷…… 5
神奈川県立こども医療センター

あるHCTCの2日間の活動…… 6～7

委員会からのお知らせ 特集 編集後記… 8

ご挨拶

日本造血細胞移植学会 HCTC 委員会委員長　**一戸　辰夫**

全国の造血細胞移植コーディネーター（HCTC）と移植チームの皆様、こんにちは。ここに2019年版の「HCTC Now!」をお届けします。本広報誌には、造血細胞移植医療に関わるあらゆる職種の方々に、HCTCの活動を日々身近なものとして感じていただきたいという強い願いが込められており、掲載記事は、全国各地のHCTCならびにHCTCサポーターの皆様からご寄稿いただいた貴重なご努力の結晶です。日本造血細胞移植学会HCTC委員会委員一同、より良い移植コーディネートの実現を目指してHCTCが様々な形で活躍している姿を、ぜひ本誌を通じて、一人でも多くの皆様にお知りいただけることを祈念しております。

認定講習Ⅰ

今年度より、テキストとして「チーム医療のための造血細胞移植ガイドブック」（日本造血細胞移植学会監修、日本造血細胞移植学会・HCTC委員会編集、医薬ジャーナル社）が導入されました。

基礎的知識の習得を目的に、造血細胞移植の「概論」「移植の実際」「採取の実際」「小児に対する概論」「対象となる疾患とドナー選定」「移植とチーム医療」「看護の実際」「倫理(医療倫理、生命倫理)」「面接技術～理論と演習～」「HLAについて」「HCTC概論」「患者コーディネート」「血縁ドナーコーディネート」「小児コーディネート」「骨髄バンクコーディネート」「社会資源と就労支援」について、講義や演習がありました。

受講中の様子

最終日午後のグループワークでは、「血縁者間移植コーディネート開始において、患者、ドナー候補双方に対する支援プロセスを組み立てることができること」を目標に活発な意見交換が行われました。

認定講習Ⅰの受講にはHCTCとしての実務経験は問われません。すでにHCTCとして業務を開始されている方のほか、看護師、臨床検査技師、臨床研究コーディネーター、事務、医師事務作業補助、臨床心理士、薬剤師など様々な職種の方が受講され、全過程を修了した69名に認定講習Ⅰ修了証が手渡されました。

受講中の様子

受講生同士で面接の演習を行っている様子

平成30年度

認定講習紹介

認定講習Ⅰ：平成30年６月８日㈮～10日㈰　於慶應義塾大学病院
認定講習Ⅱ：平成30年11月23日㈮・24日㈯　於国立がん研究センター中央病院
【認定講習Ⅰ・Ⅱの受講は、認定HCTC資格審査の申請要件のひとつとなっています】

アンケートの声

受講生の皆様、講習後アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。
「HCTCとしての活動を理解できた。今後のHCTC活動に活かしていきたい」
「他施設の受講者との交流から様々な情報交換ができよかった。」
「ロールプレイや講義を通し、実際に行っている流れや関わり方、具体的な声かけなどを楽しくわかりやすく学ぶことができた」　など
皆様からいただきました様々な‘声’を、今後の運営に反映させてまいります。

認定講習Ⅱ

実践的な知識や技術を習得しコーディネートスキルのレベルアップを目指して、主には想定事例を用いた演習を行いました。

１日目は初回面談から移植決定までの患者コーディネート、２日目はドナー候補者に電話をして来院依頼をする場面(初回対応)から面談、HLA 検査実施までの血縁ドナーコーディネートのプロセスを、受講生や講師によるロールプレイやグループワークを組み入れながら学習しました。

また、「HLA講義～実践編」、「HCTC実務の実際」、ミニレクチャー「ビジネスマナー」に、「ドナー団体傷害保険」を加えた実践的な内容の講義もありました。

受講生による面談のロールプレイ

２施設の認定HCTCからは、業務・チーム連携の進め方やHCTCの導入等についての取り組みの紹介がありました。

認定講習Ⅱは、HCTCとして一定以上の実務経験を有する経験者を対象に実施され、今年度は35名の受講生に修了証が授与されました。

初日のコーヒーブレーク

「受講生同士、活動やその悩みを共有している姿が見られました」

受講生のみなさま、お疲れさまでした。

認定講習Ⅱ修了証を持って記念撮影

認定講習Ⅰ 受講者インタビュー

岐阜大学医学部附属病院
大畑　紘一 様

Q1：部署：薬剤部
現在の業務内容：薬剤管理指導
（血液感染症内科・消化器内科）

Q2：参加動機
薬剤師5年目として今後のキャリアプランを考えていた頃、尊敬する医師からこれまで以上に移植治療に携われるHCTCを勧められ、これまでの経験と几帳面な性格を活かし新たな業務に取り組みたいと思ったからです。

Q3：病院から何を求められているか
コーディネート体制充実加算のためにコーディネート体制の整備と認定HCTCの取得。

Q4：コーディネーターとしてどのような業務がしたいと思っているか
コーディネートがより円滑に進み移植が成功するようこれまでチームに参加していなかったメンバーも巻き込んだ新たなチーム作りに取り組みたい。

Q5：コーディネートを行う際に困難に感じること
これまで薬剤師として患者に対し薬剤管理指導は行ってきたが、社会資源（高額療養費制度など）に関する知識が十分でないことから患者の抱える社会的問題の解決や家族への支援ができていなかった。

Q6：認定取得に向けて一番のハードルとその対策
薬剤師としてのこれまでの業務とHCTCとしての業務の両立に不安はあるが、チームとのつながりをより強くして乗り越えていきたい。

Q7：コーディネーター業務をする上で、自分の強みとこれから力をつけたいところ
几帳面な性格を強みとして患者・ドナーが十分理解し安心して移植に臨めるようきめ細かく情報提供していきたい。そして情報を伝えるコミュニケーション力を高めたい。

Q8：講習を終えての感想
今回の講習を通して移植の概論から実際のコーディネートについて網羅的に学び、曖昧な部分があったHCTCに対するイメージが固まり、患者・ドナーに対して中立なコーディネートをしていきたい。

Q9：決意表明
患者・ドナー双方にとって良い移植となるようなコーディネートをするぞ!

近畿大学医学部附属病院
（2019.4 より近畿大学病院）
上田　素子 様

Q1：部署：小児科
現在の業務内容：チャイルド･ライフ業務

Q2：参加動機
当科は、“HCTCに代わって”「チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）」を配置していることで施設認定を受けていますが、“HCTCに代わって” 何を求められているのかが分からず不安でした。そこで、まずはHCTCの基礎講習に参加させていただきました。

Q3：病院から何を求められているか
施設認定の維持、および血液･腫瘍疾患の患児の治療に対する診療報酬の確保だと思います。

Q4：コーディネーターとしてどのような業務がしたいと思っているか
CLSは、医療にかかる子どもの権利を擁護する役割を担っており、移植に際してはHCTCが追求する目的と共通する部分があります。今後も、大人中心の医療の世界で、子どもがつらい思いをしないように、支援したいと思っています。

Q5：コーディネートを行う際に困難を感じること
ドナー候補に挙がった同胞に対する両親の思いや接し方に、戸惑うことがあります。候補に挙がった段階では、同胞は、当科の “患者” でないため、両親を介してのやりとりになりがちで、これで良いのかと悩むことも多いです。

Q6：認定取得に向けて一番のハードルとその対策
当科で扱う症例数に増減があり、認定を維持していくことが難しいため、今のところ認定取得までは考えておりません。

Q7：コーディネーター業務をする上で、自分の強みとこれから力をつけたいところ
CLSとして、子どもの気持ちを最優先にして行動できる立場であるということが、一番の強みです。まだまだ力不足ですが、今後、移植医療においても、すべての子どもの権利が擁護される体制が整えられればと思います。

Q8：講習を終えての感想（記載時点までのもので可）
内容が盛りだくさんで、また、CLSとしては馴染みのない成人例の検討も多く、苦戦しましたが、いま一度、復習をして、今後のAYA患者や成人ドナーとの関わりにも役立てていけるようにしたいと思います。

Q9：決意表明　（ひとことで）
難解な説明や決断を求められることが多く、分かりにくい印象が強い移植医療ですが、子どもにとって、少しでも親しみやすいものになるように、微力ながら、努力していきたいと思います。

琉球大学医学部附属病院
島袋　綾子 様

Q1：部署：診療情報管理センター　医師事務作業補助
（第二内科（血液）担当）
現在の業務内容：各種診断書作成代行業務他

Q2：参加動機
業務を通して造血幹細胞移植のことを知りました。担当されている先生よりお声かけがあり参加を希望しました。

Q3：病院から何を求められているか
現在の仕事との兼務をしながら、少しずつ HCTC としての経験をつんでほしいとの事でした。

Q4：コーディネーターとしてどのような業務がしたいと思っているか
未経験者なのでとにかく患者様・ドナー様との気持ちに寄り添っていけたらと思います。

Q5：コーディネートを行う際に困難に感じること
現職との兼任が出来るのか、現場経験や知識が不足している事、患者様やドナー様の心に寄り添うことがはたしてできるのか、ということです。

Q6：認定取得に向けて一番のハードルとその対策
全てです。とにかく経験と勉強しかないのかと。

Q7：コーディネーター業務をする上で、自分の強みとこれから力をつけたいところ
診断書を担当していますので各制度についてはわかる事もあり、それを生かしつつ、必要な知識を増やしていきたいです。

Q8：講習を終えての感想
事務職なので看護師の方々との知識量の差に「私でいいのかな」と不安になりましたが、数名同じ職種の方がおり頑張ってみようと思いました。

Q9：決意表明
微力ながら移植に貢献できるようになりたいです。

公財）よろづ相談所病院
髙田　幸恵 様

Q1：部署：南 44 病棟
現在の業務内容：血液内科病棟師長

Q2：参加動機
4年前に現在の部署に配属になり、多職種カンファレンスや LTFU 外来の開設に尽力した。
移植前の意思決定や患者家族の支援、多職種との調整など病棟師長の立場でかかわっているが、資格を取得し、倫理的は配慮やリスクマネジメントにも貢献したいと考えた。

Q3：病院から何を求められているか
移植施設認定の存続
コーディネート体制充実加算の取得

Q4：コーディネーターとしてどのような業務がしたいと思っているか
血縁ドナーが採取前にインフルエンザに罹患し、移植スケジュールが変更になった事例を経験した。血縁ドナーの支援は全く誰もできていないので、意思決定やリスクマネジメントにもかかわりたい。

Q5：コーディネートを行う際に困難に感じること
病棟師長業務との兼任、多重課題の対応
中立的立場を心がけたいが病棟師長ということで何らかのパワーをかけないか心配

Q6：認定取得に向けて一番のハードルとその対策
Q5 と同じ

Q7：コーディネーター業務をする上で、自分の強みとこれから力をつけたいところ
コミュニケーションスキル、経験を積み重ねて患者の反応や結果を評価しながら力をつけていきたい。

Q8：講習を終えての感想
血縁ドナーの支援は何もしていなかったので意識してかかわっていきたい。

Q9：決意表明
できることからコツコツと

01 認定HCTC在籍施設紹介

国立がん研究センター中央病院

『一人でも多くの患者さんに完治を』

後列左から…福田科長、伊藤医師、田中医師、金医長
前列左から…稲本医師、山崎HCTC、西岡HCTC、黒澤医長

造血幹細胞移植科
福田　隆浩 科長

私が2005年に九州大学から国立がん研究センター中央病院へ赴任した時に、初めて造血細胞移植コーディネーター（HCTC）の山崎さんと出会いました。その頃から当院では年間100件前後の造血幹細胞移植を行っており、HCTCという存在がいることで移植がスムーズに進むことを実感しました。2018年からは、骨髄バンクドナーの院内コーディネートやCRC業務・TRUMP入力などに関わってくれていた西岡さんが当院2人目のHCTCとして活動しています。

HCTCは、患者さんやドナーそしてそれぞれの家族を第三者として支援する立場で、移植コーディネートだけでなく様々な面で貢献してくれています。当院ではドナー候補がHLA検査を行う前からHCTCが関わるようにしています。ドナー候補となった血縁者に対して、末梢血幹細胞や骨髄の提供についての概略やスケジュール、そして合併症のリスクについて補足の説明を行い、ドナーや家族の不安へ対応していきます。血縁者とはいえドナーは様々な思いを抱えており、医師には伝えにくいことも多いため、第三者の立場で関わるコーディネーターの存在は非常に重要です。

骨髄バンクのコーディネートにおいても重要な役割を担っています。骨髄バンクとの連絡・調整において、できるだけ短期間でコーディネートしていくスキルがあると、患者さんの治療成績向上にも直結します。当院では可能な限り非血縁末梢血幹細胞を選択していて（2018年はバンク移植の75%がPB)、昨年4月からは10人コーディネートを開始して患者登録から100日以内に移植できる事も増えてきています。

また、当院ではHCTCがコーディネートや移植までの流れなどについての説明をセカンドオピニオン後に行い、実際に病棟見学を案内しています。そうすると移植を乗り越えていくイメージがつかめるのか、多くの患者さんから好評を得ています。

最後に、これからHCTCを目指す方にとってメッセージです。患者さんや家族と一緒に考え共感できる気持ちの強さや、移植に関わる内外のメンバーと信頼関係をつなぐための責任感が大事です。またHCTCとして過去のコーディネートの経験は大きな財産となるため、次の世代に伝えていってほしいと思います。

今後、多くの方からHCTCとして移植治療に関わってみたいと思えるようなチーム医療を進めていきたいと思います。

HCTC
山崎　裕介 様

国立がん研究センター中央病院でHCTCとして勤務し16年が経ちました。従事を開始した2002年はミニ移植全盛期で、数多くの移植をおこなう中で四苦八苦しながらコーディネート業務をおこなっていたことを覚えています。

当院は移植件数が多く、常に複数のコーディネートをおこなっている状態にありますが、各コーディネートの状況を正確に把握し、患者さん、ドナー、家族に適切なタイミングで介入することを意識しています。また、当院は移植に特化した診療科であるため、他施設から移植目的で、血縁者間のHLA検査を済ませて来院される患者さんも多く、セカンドオピニオン、初診時に初めて顔を合わせ、移植の調整・準備を進めていくことになります。そのため、初期段階から介入しているケースと比べると、意思決定を含めた移植の準備を短い期間でおこなうことになりますが、状況を整理し、思いや不安、疑問などに耳を傾け、倫理面に配慮しながら適切にコーディネートを進めていくことを心がけています。その中で特に意識していることは、面談時の環境作りと平易な表現と資料等を用いたわかりやすい説明、そしてある程度ゆとりを持った面談時間の確保といった点です。

業務においては、日本造血細胞移植学会のホームページにも掲載されている、HCTC標準業務リストのほとんどの業務・役割を担っています。なかでも移植件数が多い当院においては、病棟や関連部門との連携を重要視しており、情報提供、共有については定期的に更新する書式の運用や、カンファレンスで関係者が直接顔を合わせスケジュール等の確認などをおこなっています。

そして2018年7月からHCTC2人体制で活動できるよう整備を進めています。患者さんやドナーへの対応機会の拡大や、リスクマネジメントの強化、お互いの不在時のフォローなど、コーディネートの向上に努めていきたいと思います。

02 認定HCTC在籍施設紹介

神奈川県立こども医療センター

『成長発達過程にある子どもとその家族への より良い医療とケアを目指しています』

血液・腫瘍科、緩和ケア医師、薬剤師と
前列一番右：血液・腫瘍科部長 後藤医師。前列一番左：竹之内HCTC

血液・腫瘍科　医師
後藤　裕明 部長

当センターでは1980年代から小児患者に対する同種造血細胞移植に取り組んでおり、現在では自家・同種を合わせて年間20件程度の移植を行っています。対象には造血器疾患だけではなく、神経芽腫、髄芽腫などの固形がんや原発性免疫不全症も多く含まれるのが小児専門病院としての特徴です。施設における機能の制限から、非血縁ドナーからの造血細胞採取は行っておらず、骨髄バンクコーディネートのみを担当しています。

小児患者の同種造血細胞移植では、そのきょうだい（兄弟、姉妹）がドナー候補となる場合が少なからずあります。HLA検査やドナー適格性検査の段階でも、当然ながら骨髄・末梢血ドナーの自発的な意思を尊重しなければならないはずですが、最初の説明も患者治療施設である当センターの中で行われ、患者のきょうだい自身が自由な意思を表出できるような環境を整えることには、あまり意識は向けられてきませんでした。ドナーについての説明を行う医師、あるいは両親も、どちらかと言えば、患者さんの治療を優先する傾向は否めませんでした。ドナー候補の意思表示の権利を擁護することは移植治療の根幹であり、HCTCは、より客観的な立場で、時にはドナー候補の心情に寄り添いながらコーディネートを担当する、重要な役割を持った職務です。患者さんやご家族は、相談ごとや心配ごとを、移植を勧める医師ではなくHCTCには打ち明けることがあります。

造血細胞移植に関わる種々の作業がHCTCの介在により、円滑になるのはこれまでのHCTC, Now!でも紹介されたとおりです。小児科の領域では、さらに、レシピエント、ドナー両者におけるこどもの権利を守る重要な職務を担っています。

HCTC
竹之内　直子 様

当院では、2002年に策定された「健常小児ドナーからの造血幹細胞採取に関する倫理指針」に基づき、同胞がドナー候補と考えられた時に、そのきょうだいの権利擁護を考えることを大切にしてきました。それがシステム化され、自分が小児看護専門看護師になるにあたって、同胞ドナー候補、また家族への介入を始めたのが、HCTCへの入り口でした。小児専門病院のため、業務の内容には限りがありますが、意思決定支援を中心にしながら、HCTCの認定講習などを受けるうちに、移植医療に伴うコーディネートにはレシピエントやドナーの権利擁護やそれを取り巻く倫理的考慮の他、安全で確実な医療が提供されるために多方面におよぶ簡単ではない役割が必要であり、大切であることを実感しました。昨年HCTC認定後は、院内での課題について少しずつ、医師はじめ多職種とともに、改善する方向へと働きかけ、これまで見過ごしてきた事柄へも取り組んできました。また移植カンファレンスでは、患者さんやそれを取り巻く情報を共有して、自分たちの役割をよりよく発揮できることを目的に、移植医療に直接的、間接的に関わる全ての職種に声をかけて開催しています。そして、各職種がより子どもや家族に関心をもって関わっていることを実感しています。小児医療は、成長発達過程にある子どもとその家族を主体としたケアに多職種で携わることがとても大切です。しかし、それぞれの思いが強すぎて、レシピエント、血縁ドナー、またその家族の視点を見失いそうになっていたり、あるいは、逆に想像から代弁しすぎてしまってはいないだろうかと感じることもあります。コーディネーターとして、まだまだ足りないことはたくさんあり、迷いながらのことも多いのですが、他院の先輩HCTCの方々の知恵もいっぱい借りながら、安全で確実に、そして対象者の権利擁護の役割が発揮できるように多職種と繋がったり、繋げたりしながら共に頑張っていきたいと思います。

あるHCTCの2日間の活動

○月1日（月）

活動内容	詳細業務
8：30 ・メール、FAX確認	
9：00 ◎外来患者対応	骨髄バンク、さい帯血バンクの進捗状況報告 骨髄バンク登録中患者の精神的フォロー（不安や金銭面など）
10：00 ◎血縁ドナー候補者A氏夫妻と面談 面談後医師と適格性確認 11：00 HLA検査実施	HCTCの役割、提供は自由意思であることを説明。健康状態を問診票にて確認。院内作成のパンフレットを用いリスクや方法について説明。今の思いや不安を聴取しHLA検査実施に関する同意確認。今後の相談対応方法、スケジュールの説明。
12：00 《昼休憩》	
13：00 ・メール、FAX確認 ◎血縁ドナーB氏妻からの相談対応 14：00	夫の負担の大きさ、リスクについて不安がありHCTCに相談のため来院。妻の思いを傾聴し、もう一度家族で話し合うことを提案。再度HCTCとD氏と妻との面談を依頼。
15：00 ・多職種合同移植カンファレンス コーディネート進行状況報告	
16：00 ◎患者C氏からの費用に関する相談	休業中の生活費、移植に掛かる費用について相談。傷病手当など説明し、MSWを紹介。
17：00 ◎医師と骨髄バンク・さい帯血バンク書類確認 ・メール、FAX確認	患者の病状を確認し骨髄バンクコーディネート継続かさい帯血移植やハプロ移植に変更の可否を確認。 新規登録患者のドナーピックアップ、確認検査日調整
18：00 《業務終了》	

◎は詳細業務の記載があるものを示しています。

○月2日（火）

	活動内容	詳細業務
8：30	・メール、FAX確認	
9：00	◎移植適応とされた患者D氏との面談	先週金曜日に医師からIC（同席）。その後面談を実施。本日２回目の面談。移植を進めてほしいとのことで、きょうだい（ドナー候補者）に関する情報収集。２人きょうだいで姉がいるとのこと。きょうだいの関係性、健康状態など確認し連絡調整。
10：00		
	◎患者F氏へ骨髄バンク登録説明	骨髄バンク説明用紙に基づきF氏と妻に説明。骨髄バンク登録後のドナーが得られる全国平均人数、ドナーが決まらなかった場合のこと、骨髄バンク免除申請手続きについても説明。今後の連絡方法、問い合わせ窓口について確認。
11：00		
12：00	《昼休憩》	
13：00	・メール、FAX確認 ◎骨髄バンク移植決定患者G氏と面談	移植日、ドナー情報報告。ドナーへのサンクスレターのお願い。これからのスケジュール説明。 これまでの思い、移植後の期待、ドナーへの感謝の気持ちなど傾聴。 検体保存事業同意書に関する説明の実施。
14：00	・骨髄バンクドナー採取施設へ連絡 ・骨髄バンク移植調整部へ連絡 ・血縁ドナーE氏自己血貯血	
15：00	◎入院患者訪問 ・病棟看護師と情報共有	移植前患者：骨髄バンク進捗状況の情報提供、移植に関する不安などの傾聴。費用に関する事などの質問対応。 移植後患者：移植を行ったことでの不安、苦痛な思いなど傾聴。骨髄運搬の療養費払いの払い戻し申請に関する手続きなどの質問対応。 患者訪問を基に病棟看護師と情報交換
16：00	・医師と骨髄バンク・さい帯血バンク書類確認	
17：00	・メール、ＦＡＸ確認	
18：00	《業務終了》	

◎は詳細業務の記載があるものを示しています。

HCTC委員会からのお知らせ

今後の予定

相談窓口
htct-sodan-jshct@umin.ac.jp

【認定講習Ⅰ】
HCTCとして活動されている方、今後、HCTCとして活動予定の方を対象とし、コーディネートの基礎的知識の習得を目的としています。
会場 国立がん研究センター中央病院（東京都中央区築地5−1−1）
日時 2019年5月31日㈮〜 6月2日㈰
詳細は3月頃に学会HPに公開予定です。

【認定講習Ⅱ】
認定講習Ⅰの受講修了者で、所定の要件を満たしたHCTCを対象とし、コーディネート業務を行う上で必要とされる実践的な知識や技術の習得を目的としています。
会場 国立がん研究センター中央病院（東京都中央区築地5−1−1）
日時 2019年11月8日㈮〜 11月9日㈯

認定講習Ⅰ、Ⅱの受講は、
いずれもHCTC認定申請要件となります。

【認定審査】
平成29年度より新認定制度導入に伴い、認定審査が年1回になりました。認定申請は7月頃、認定試験は9月頃、の予定です。日程や詳細が決まりましたら学会HPで公開するとともに、学会員の方にメール配信予定です。

【その他】
・造血細胞移植学会総会において、認定更新セミナー、グループミーティングを開催、会場にはブースを設置致します。
・見学研修の受付は随時行っています（学会HP参照）。

特集

移植医療を支える仲間をご紹介

CLS(Child Life Specialist)

大阪母子医療センター　長野　友希

大阪母子医療センターでは、医療環境における子どもの不安や恐怖を軽減し、前向きにかつ主体的に医療経験に向かえるよう心理社会的支援を行う専門職としてチャイルド・ライフ・スペシャリストを含むホスピタル・プレイ士（HP士）が働いています。HP士は血液・腫瘍科病棟をはじめとする外科系・内科系の病棟で活動しています。なかでも、小児がんの治療では、苦痛を伴う検査や処置に加え、長期入院が必要なことが多いため、特に、HP士のサポートが必要であると考えます。

HP士は、子どもが医療環境において抱える課題をアセスメントした上で、それぞれに合った支援（手術・造血細胞移植・検査・処置に関する支援、療養支援等）を提供しています。例えば、手術・造血細胞移植・検査・処置に関する支援では、子どもの成長・発達に合わせたツール用い、子ども自身が「できる」「がんばれる」と思えるよう心の準備を支援します。また、子どもと一緒に医療体験を振り返ることで、その経験が子どもの自信に繋がるようなサポートも行います。苦痛を伴う検査や処置では、HP士が付き添い、子どもが落ち着いて検査等を受けられるようリラクゼーション支援等を行います。療養支援においては、入院生活の中で、子どもの日常性が確保できるような活動を提供したり、病院環境を整備したりしています。

小児がんの家族の不安は特に高まりやすいことから、家族の心理社会的サポートも重視しています。家族が中心になって子どもの病気に向き合い治療に取り組んでいけるよう、親やきょうだいの情緒支援を一層充実させたいと思っています。

編集後記

HCTC委員会広報誌HCTC, Now!を今年も発刊することができました。認定講習Ⅰ受講者インタビュー記事は、HCTCを志す仲間の心情に共感を覚えていただけると思います。国立がん研究センター中央病院、神奈川県立こども医療センターの施設紹介は、現場の雰囲気を感じ取っていただける充実した内容になっています。特集の大阪母子医療センターのCLS (Child Life Specialist)紹介記事は、子どもを支える取り組みを参考にして頂くべく企画致しました。今号も充実した記事が満載です。移植施設認定基準としてHCTC配置が必要になるからというだけでなく、HCTCという職種に魅力を感じてHCTCを志す仲間が増えることがHCTC委員会一同の願いです。

HCTC委員会広報小委員会委員　**井上　雅美**